

## 1 応募数に関するもの

- 応募数の上位いくつかの中に絞って検討するという手法もある。
- いただいた意見も尊重しなければならない。応募数も重要なポイントである。
- 多数応募いただいた案から候補を採るべきではないか。
- 例えば、応募数の上位 3 案を採り、検討委員会から 2 案程度追加し、住民に選択してもらえばよい。
- 旧市町村名で決まりのような感じがする。
- 応募数が民意となる。
- 応募数を重視することは問題があるのではないか。
- 住民主体というなら、応募の総数というのはいかがか。居住する区の住民の応募も考慮すべき。
- 応募数も参考としながら、審議会委員の判断で検討していく必要がある。
- 前回の審議会で区名案を募集するにあたっての考え方としては、区の名称とするのは不相当と思われる案は 100 票でも落とす、区の名称として妥当であると思われる名称は 1 票でも残すということだったと思う。
- いただいた区名案の中から、地域を表す良い名称をつけるのが審議会の使命だ。
- 勝ち負けの気持ちを引き起こすのであれば、そのような名称は除くべきではないか。
- 数で決めるのは、当初の考え方に反するのではないか。

## 2 旧市町村名の使用について

- 旧市町村名を使うか使わないかという議論がいるのではないか。
- 選定の基本的な考え方を満たすことが必要なのではないか。
- 検討委員会で、選定の基本的な考え方の 3 つの原則にあてはめて考えていただくほうがよい。
- 旧市町村名を区名にすると、その市町村以外の居住者は、納得できないところが出てくるのではないか。お互い得心がいくということが必要だ。
- 地域の中で対立を生むものは、基本的な考え方に反するのではないか。
- 地名は長い歴史があり、地元の人には愛着がある。
- その区を構成する地域の意見がまとめれば、旧市町村名を使っていいのではないか。最初から除くのはいかがなものか。
- 地名の残し方として、区名でなければいけないのか。
- 例えば現在でもあるが、「新潟市新津本町」などのように地名として残すということではどうか。

選定の基本的な考え方にあるが、

- ・ 多数寄せられた意見でも、地域の中に重要な忌避感があれば、選定できないのではないか。
- ・ 区の内外から愛着を持ってもらう区名が必要ではないか。
- ・ 全市的な整合性が必要なのではないか。

これらを前提として考える必要があるのではないか。

### 3 その他

7区と8区では、「西」「西川」という名称がダブっている。この辺りの調整も必要ではないか。

検討委員会からは、区名意向調査にかける候補数より若干多い候補を挙げてもらい、審議会で検討するほうがよい。

できれば、若い世代の意見も入れながら論議すべきではないか。

若い人の意見として、旧市町村名は使わず、新しい名称で、政令市として新たな出発をすべきと聞いている。

各区の意見・理由を斟酌することを選定の基本的な考え方に加え、検討委員会で論議してほしい。

そうすれば、さほど市民の考えとかけ離れたものにならないのではないか。